

平成 28 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(清水地区)

開催日時	平成 28 年 10 月 25 日 (火) 午後 7 時から午後 9 時	天気 雨
場 所	清水ふれあいセンター	
町民参加者	男 28 人 女 9 人 (50 代 1 人、60 代以上 36 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画政策課長、参事兼農林課長、財務課長、環境課長、新東名対策室長、総務防災課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：新東名工事に係る安全対策について》

○新東名について静岡県小山町では中島高架橋や谷ヶ山トンネルの掘削工事が始まったと NEXCO 中日本のホームページに掲載されていた。それを見ると山北町の方はまだ進んでいないようだが、完成は平成 32 年となっているのでそれに合わせるために手抜き工事が行われぬか心配している。工事を行うにあたって、工事中の環境保全対策については国が十数項目指針を出していて、それに従って進めていると思うが、その進捗状況を町 HP など情報開示してもらえるとありがたい。その中で住民から出るアイデアや要望がリスクを掘り起すかもしれない。それらを汲み取っていただき安全安心な工事を進めてもらいたい。工事にあたっては工事サイト外においてダンプ等による土砂の搬入搬出等があると思うが、ダンプ等の騒音・振動・排ガス対策についての徹底もお願いしたい。それから粉塵対策、各所から入ってくる掘削した土砂等の土壌検査などもしてもらいたい。

○現在の新東名高速道路の建設にあたって、大蔵野地区では家屋の移転が発生している。移転しなければならない家が 7 軒あって、すでに 5 軒が移転し、残りの 2 軒はこの 11 月に移転を予定している。率にすると大蔵野地区全体の 26%の家が大蔵野地区の土地を離れなくなっている。また、大蔵野地区のど真ん中を新東名高速道路が突っ切るということで、地区が分断されてしまうという大きな問題があり、日常生活にも大きな影響が出るのは明白な状態である。新東名高速道路の建設によって地域が分断されてしまうが、県の方では環境アセスメントが実施されていると思うが、その中で地域分断についてどのような意見が付されているのか明確にしていきたい。地域の振興策について町としてどのような考えを持っているのか。

《テーマ：鳥獣被害防止のための新たな対策について》

○個人の畑にサルの被害がかなり多いので、何とかしてもらいたい。

○この頃はシカが多くて困っている。裏山の急斜面に 10 頭以上現れて、けもの道ができてしまい、大雨が来ると崩れてしまう危険性がある。シカについて何とか手を打ってもらいたい。

○ワナの免許を取りに行っただが、結構費用がかかる。また、猟友会に入ると1万円かかるということもあり、地区振としてもバックアップする必要があると考え、清水地区として補填しようと決めた。それを含めて町の方にもバックアップしてもらえないか。また、免許を取って気が付いたが、イノシシやシカを捕まえても危険を伴うので、止め刺しができない状況である。そこで猟友会に話をしたところ、猟友会に入ってもらわなければ止め刺しはやれないということだった。捕まえても止め刺しができなければ意味がないので、町の方で何とかしてもらいたい。

《テーマ：町政全般》

○避難についてだが、三保ダムが決壊した場合はどうするのか。三保ダムはどれくらいの震度まで耐えられるのか。神縄地区付近の山北藤野線は下側がえぐられていつ崩れるかわからない。そのような状況で、洪水が起きたことを考えると恐ろしい。

○丹沢湖の砂を運び出しているが、小山町の方に行く車と、谷ヶの上に行く車の2社あるようだが、茶業センター前が渋滞してしまい、子どもの塾のために谷峨駅に送る際に間に合わなかったというような苦情もでているので、何とか1社ずつにできないか。